

## 長崎県植物誌ノート(15)

中 西 弘 樹

Hiroki NAKANISHI: Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (15)

**Abstract:** Nine species, one variety and one forma including which are newly found in Nagasaki Prefecture, and nine rare species are described in this paper. *Pellionia yosiei* which has been considered as a endemic species in Miyazaki Prefecture was newly found in Tsushima Islands, Nagasaki Prefecture.

### はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」の目録に記されていない、いわゆる県新産の植物と、希産種の産地追加を記録する。記載は番号、種名、科名、産地、国土地理院5万分の1地形図の図幅名および4分割の位置、海拔、発見年月日、標本番号の順に記してある。宮崎勉氏、川内野善治氏にはそれぞれ現地にご案内いただいた。厚くお礼を申しあげる。

### 県新産の植物

外山(1980)および松林(1981)の目録に記載されていないもので、筆者が確認したものを記しておく、一部はすでに記録されたものもあるが、文献名と共に新たにあげておく。

175. ニセヨゴレイタチシダ *Dryopteris hadanoi* Kurata (オシダ科)

長崎市本河内町 [長崎1], 160m, Dec. 23. 1994, (No.14208)

高知県、大分県、宮崎県、鹿児島県の一部に分布し、山地のやや乾いた林床にまれに生育する(倉田・中池1985)。オオイタチシダに似てい

るが、葉柄、葉軸、羽軸の鱗片が圧着し、袋状とならない。

176. チクゴスズメノヒエ *Paspalum distichum* L. var. *indutum* Shinners (イネ科)

南高来郡加津佐町野田 [口之津1], 10m, Sept. 7. 1994, (No.14306), 南高来郡小浜町松平 [肥前小浜2], 220m, Aug. 13. 1995, (No.15006)

キシユウスズメノヒエとよく似ており、混同されてきたが、6倍体であるためより大型で、葉鞘や葉身に長毛が多い。

177. タイワンヤマイ *Scirpus wallichii* Nees (カヤツリグサ科)

東彼杵郡東彼杵町大野原 [早岐2], 430m, Oct. 8. 1994, (No.14068); 同町一ツ石郷 [大村1], 300m, Oct. 8. 1994; 大村市原郷 [大村1], 160m, Oct. 29. 1994, (No.14126)

植物体全体はホタルイを細身にしたような姿で、ヒメホタルイにもやや似ている。ヒメホタルイのように根茎ははわず、叢生し、小穂は1~数個が集まってつく。

178. マルミスブタ *Blyxa aubertii* L. C. Rich (トチカガミ科)

諫早市貝津町 [肥前小浜3], 20m, Sept. 4. 1994, (No.13836), 福江市平蔵町 [福江4], 15m, Sept. 24. 1994, (No.13978)

植物体はスブタと区別できないが、種子に突起がないことで区別できる。

179. ソノエビネ (タカネ) *Calanthe discolor* Lindl var. *bicolor* Makino (ラン科)

平戸市山野入り口[生月4], 200m, May. 4. 1994, (No.13739)

エビネとキエビネの間種と考えられ、両種の中間の形質をもつ。栽培されているものの中によく見かけるが、野生ではまれとなった。

180. ツクシヤブマオ *Boehmeria kiusiana* Satake (イラクサ科)

下県郡厳原町内山[厳原4], 150m, Sept. 11. 1994, (No.13916)

ナガバヤブマオとヤブマオの中間的な形態をしており、葉はナガバヤブマオのように長卵形となるが、葉柄や葉裏に密毛がはえ、葉質が厚いことが特徴である。

181. ナガバサンショウソウ *Pellionia yosiei* Hara (イラクサ科)

下県郡厳原町竜良山[厳原4], 150m, Oct. 6. 1982, (No.10945); Sept. 10. 1994, (No.14414)

葉は上面が深緑色で、光沢があり、中央に細長く白斑点が入るため、一見してオオサンショウソウなどと区別できる。最初、長崎大学の伊藤秀三教授と調査をしていた際に発見し、長い間詳しく調べずにそのままにしておいたが、その後調べた結果、これまで宮崎県に固有の種と考えられてきたナガバサンショウソウであることがわかった。植物分類地理学会の野外研修会



図1 ナガバサンショウソウ (厳原町)



図2 カミガモソウ (世知原町)

が行われた時に、京都の村田源氏をご案内し、確認していただき、氏も発表している (村田1994)。

182. カミガモソウ *Gratiola fluvialis* Koidz. (ゴマノハグサ科)

北松浦郡世知原町平川原池 [伊万里4], 420m, Oct. 25. 1994, (No.14028)

川内野善治氏が見なれぬ植物を採集し、筆者のもとに送られてきた。調べた結果本種であることがわかった。本種は京都上賀茂神社で発見され、1925年に新種として記載されたものであるが、その後採集されたことがなく、40年近くたって兵庫県上郡町で再び発見された珍しい植物である。生育地の環境や形態については中西・川内野 (1994) に報告しておいた。

183. ハイキツネノボタン *Ranaunculus quelpaertensis* Nakai var. *glaber* Hara f. *prostratus* Hara (キンポウゲ科)

北松浦郡世知原町平川原池 [伊万里4], 420m, Oct. 1. 1994, (No.14029, 14030)

花や果実の形態はキツネノボタンと変わらないが、茎が直立せず、倒伏する特徴がある。これまで本州からのみ記録されてきたが、九州各地に産するものと思われる。

184. アゼオトギリ *Hypericum oliganthum* Fr. et Sav. (オトギリソウ科)

東彼杵郡大野原足形池 [早岐2] 430m, July. 4. 1994, (No.14315)

本種はかつてよく見られたと言われているが、

今ではレッドタプランツの1つにあげられている。多年草であるので、茎の根本が木化しているので区別できる。

#### 希少植物の産地追加

133. ミズワラビ *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn. (ミズワラビ科)

北高来郡森山町唐比名 [肥前小浜], 1 m, July. 28. 1995, (No.14963, 14964)

水田や池に生育するシダ植物で、水田に生育しているものは小型であるが、池などの水中に生育したものは大型となる。

134. マツバラン *Psilotum nudum* (L.) Beauv. (マツバラン科)

長崎市太田尾町 [長崎 2], 2 m, Feb. 11. 1995, (No.14263)

海岸崖地に生育するもので、県下で最も大きな群落である。この崖にはハマホラシノブ、タマシダも生育している。この生育地は宮崎勉氏が発見したものである。

135. ヤワラハチジョウシダ *Pteris natiensis* Tagawa (イノモトソウ科)

西彼杵郡長与町藤ノ棟堤西 [長崎 1], 150m, Feb. 2. 1995, (No.14746)

コハチジョウシダと隣接して1株のみ生育していた。これまで県内では、五島と長崎市に知られていたものである (中西1988)。

136. ツクシクロイヌノヒゲ *Eriocaulon nakasimanum* Satake (ホシクサ科)



図3 ミズワラビ (森山町)



図4 ツクシクロイヌノヒゲ (東彼杵町)

西彼杵郡大瀬戸町雪浦河通郷 [神浦 2], 130 m, Nov. 20. 1994, (No.14750); 東彼杵郡東彼杵町大野原 [早岐 2], 430m, Oct. 8. 1994, (No.14367)

九州にまれに生育するホシクサの仲間、長崎県ではこれまで大村市からのみ知られていた。

137. ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremiorientalis* Ohwi (カヤツリグサ科)

南高来郡加津佐町六反田名中原溜池, [口之津 1], 110m, Sept. 7. 1994, (No.13819, 13820)

1994年の夏は異常渇水のため、池が干上がり、池畔の植物が池全体に繁茂している所が各地で見られたが、ヒメアオガヤツリもその1つである。これまで大村からのみ知られていたが、大村市や東彼杵町の池に群生し、加津佐町でも生育していた。

138. ニラバラン *Microtis unifolia* Reichb. fil. (ラン科)

西彼杵郡長与町崎野ノ鼻 [大村 4], 50m, June. 11. 1995, (No.14679)

各地に点々と生育するが、産地は少ない。ふつつう草地に生育するようであるが、長崎県では岩上に生育する場合が多い。

139. センニンモ *Potamogeton maackianus* A. Benn. (ヒルムシロ科)

西彼杵郡長与町斎藤郷 [大村 4], 1 m, Nov. 29. 1992, (No.13296)

外山 (1980) は産地として国見町神代をあげているだけである。長与町の小さな河川に生育

している。

140. スズメノハコベ *Microcarpaea minima* Merrill (ゴマノハグサ科)

東彼杵郡東彼杵町一ツ石郷綿打池 [大村 1], 300m, Oct. 8. 1994, (No.14073)

湿地に生育する小型の植物で、これまで小浜町諏訪の池と福江市雨通宮に知られていたのみである。全国的にもまれな植物である。

141. ハマジンチョウ *Myoporum bontiides* A. Gray (ハマジンチョウ科)

福江市久賀島大開川 [福江 1], 0 m, Sept. 24. 1994, (No.13950)

本種の分布については外山・伊藤 (1975) の研究があり、それによると久賀島には田ノ浦に記録されているが、その後絶滅した。今回発見されたのは久賀湾に注ぐ大開川の河口付近で、幅約 3 m, 長さ約 8 m にわたって群落をつくっている。ここにはハマボウ、シバナ、シオクグも生育している。

## 文 献

倉田 悟・中池敏之 (1985) : 日本のシダ植物図

鑑 4. 850pp. 東京大学出版会, 東京.

松林文作 (1981) : 長崎県シダ植物誌. 104pp.

長崎県出版文化協会, 長崎.

村田 源 (1984) : ナガバサンショウソウを対馬に記録する. 植物分類地理 45 : 172.

中西弘樹 (1988) : 長崎県植物誌ノート (4). 長崎県生物学会誌 34 : 13-18.

中西弘樹・川内野善治 (1994) : カミガモソウの新産地とその形態. 植物分類地理 45 : 169-171.

外山三郎 (1980) : 長崎県植物誌. 321pp. 長崎県生物学会, 長崎.

外山三郎・伊藤秀三 (1975) : 西九州におけるハマジンチョウの分布と生態. ヒコビア 7 : 117-124.

(なかにし・ひろき ; 〒850 長崎市弥生町666



図 5 ハマジンチョウ (久賀町)

長崎女子短期大学)